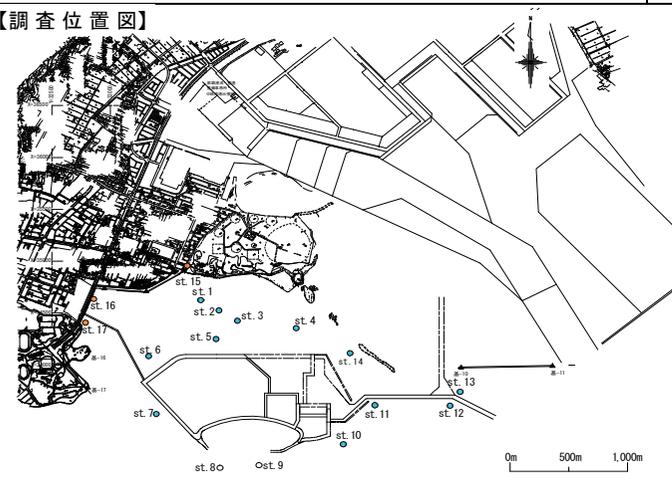


| | | 異常確認の有無 | 工事との関連性 | 対策の検討 | |
|------------|--|---|---|--|--|
| 目視観察結果 | 調査地点の最高値は3月18日AMIにst.16で50mg/l、3月24日PMIにst.17で49mg/Lを観測した。両日とも調査中降雨があり、濁水流入を観測した。 なお、3月は全監視地点で工事監視基準値を満足した。 | | | ・特になし | |
| | 水質調査結果 | クビレミドロ監視地点基準値 【st.1～3: SS=7mg/l】 | 期間中は、全地点で工事監視基準値を満足した。 平均値は2.6mg/l、<1.0～6.8mg/lの範囲で推移していた。 | 3月は基準超過地点は、見られなかった。 最大値は、3/18PMでst.2で6.8mg/Lと通常に比べ高い値を示した。 気象海象条件は、水深が0.4mm、風向きが南南東で風力4～5であり、沖合は時化していた。通常よりも水深が浅く、南方向の風の影響で周辺の底質が巻き上がり、値が上昇したものと考えられる。 | |
| | | 工事の濁り監視地点基準値 【st.4～14: SS=11mg/l】 | 期間中は、全地点で工事監視基準値を満足した。 平均値は2.3mg/l、<1.0～10mg/lの範囲で推移していた。 | 3月は基準超過地点は、見られなかった。 ただし、3/18にst.14で10mg/Lを観測した。 要因として、風向が南南東、風力が4～5、波高が最大0.6mと時化しており、波浪の影響により、底質を巻き上げたことが要因として挙げられる。 | |
| | | 流入部負荷量の調査地点 | SS=11mg/lを超えた回数： st.15= 48計測中34回 (7.1mg/l～39mg/l) st.15= 48計測中34回 (5.8mg/l～50mg/l) st.15= 48計測中39回 (4.7mg/l～49mg/l) ----- SS=50mg/lを超えた回数： st.15= 48計測中0回 st.15= 48計測中0回 st.15= 48計測中0回 | | |
| | | 流入水路部調査地点(st.15、st.16、st.17)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。 | st.15: 3/23(PM 上げ潮時)で39mg/lが最大値であった。前日とも降雨は確認されず、濁水流入もみられなかった。 st.16: 3/18(AM 満潮時)で50mg/lが最大値であった。当日は調査中に降雨があり、濁水流入を確認した。 st.17: 3/24(PM 上げ潮時)で49mg/L が最大値であった。当日は正午前後、及び調査中に降雨があり、濁水を確認した。 | 【調査位置図】  | |
| 基準超過時の気象概況 | 3月は基準超過地点が見られなかったため、参考として海域で高い値を示した3月18日、及び流入水路部地点のSS値が高かった3月23日及び3月24日の気象概況を示す。 ・3月18日は、平均風速が10～14m/sで、最多風向は南南西方向であった。降雨は前々日及び前日は0mm、当日は48.5mmを観測した。 ・3月23日は、平均風速が3～5m/s、最多風向は南東方向であった。降雨は調査前日3日間、及び当日で確認されなかった。 ・3月23日は、平均風速が3～5m/s、最多風向は南東方向であった。降雨は調査前日3日間確認されなかったが、当日23mmの降雨を確認した。 | | | | |
| 基準超過時の工事状況 | 調査時の工事内容は以下の通りであった。 揚土場：土砂工(フローター管・排砂管撤去・解体)(3/18) 仮設航路：－ 突堤：被覆・根固工 被覆石投入・均し(3/18)、汚濁防止膜撤去、灯浮標撤去(3/23～3/24) 陸上：－ 新港地区：汚濁防止膜撤去・解体(3/18) | | | | |

備考)st.8及びst.9は沖縄県により調査が実施されている。

